

DP (教育目標)

- DP1 経営情報それぞれの分野に応じた専門的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP2 情報通信技術 (ICT) を活用して経営に係る分析ができ、新しい視点に立って経営活動に携わることができる。
- DP3 多様な価値観について理解し、異文化社会に属する人々とコミュニケーションをとりながら、積極的に連携・協働することができる。
- DP4 社会人として必要な倫理と自律性、協調性を身に付け、ストレスコントロールをしながら適切にリーダーシップを発揮し、行動することができる。
- DP5 企業、行政、教育等の現場において、正しく状況を把握し、課題を発見し、解決に努めることができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	SDGs該当項目	
全学部共通 基盤科目群	経営情報基礎論A	2	必修	○	この授業では、経営情報学部での学びにおける基礎、特に、情報システム技術の基礎について学修する。						4	
	デジタルアプリA	2	必修	○	情報を文字データやプレゼンテーションデータ、数値データとして扱うためのソフトウェアの利用を通して、コンピュータを利用して情報を処理する方法について演習を通して学修する。						4	
	情報セキュリティA	2	必修	○	情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解する。						4	
	マーケティング論	2	選択	○	本講義では、マーケティング活動を有効に実行するための基本的な知識や理論を理解することを目的としている。							4
	生涯スポーツ概論	2	選択	○	この授業では、主に、スポーツ科学の観点から運動・スポーツの意義、体力、運動とからだ、およびトレーニングの方法について学ぶ。また、近年では、健康者に対するスポーツだけでなく障害者に対するスポーツも重要なテーマである。したがって、障害者スポーツについても学ぶ。							4
	スポーツ社会学	2	選択	○	本授業では、スポーツとは何か、あるいはスポーツの歴史を理解した上で、現代社会におけるスポーツの考え方や問題点を明らかにし、各々の問題点について自らの意見を論理的に説明できることを目標とする。							4
	スポーツ科学A	1	選択	○	本授業ではスポーツ実技を行う。スポーツ種目は、競技スポーツとレクリエーションスポーツを複数種目行うこととする。また、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法でスポーツ・運動を実践する習慣を身につけるようにしたい。							4
	スポーツ科学B	1	選択	○	到達目標は、授業で取り組むスポーツ種目のルールを理解し、ゲームができる技能を習得することである。また、主に球技などのチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得を目標とする。							4
日本国憲法	2	選択	○	日本国憲法とは何かを理解し、今後、自分の身近で起こる社会問題について、憲法の観点から考察することができるようになることが、本授業の到達目標である。							4	
キャリア形成 科目群	ビジネスキャリアI	1	必修		ビジネスキャリアIでは「スタディ・スキルズ」での学びを踏まえて、アクティブラーニングを助長するため、学生の知的好奇心を高められる課題解決型のテーマ設定を行い、グループでのディスカッションやプレゼンテーション等を行う予定である。				○	◎	4,5,17	
	ビジネスキャリアIIA	1	必修		3年次からの専門ゼミナール導入教育として演習活動に必要な基本を、プレゼミ的に学んでいく。当該コース教員による演習を通じ、所属分野に対する学生の興味を喚起し、3年次からの専門ゼミナールにつなげられるよう、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。また、就職活動を円滑に進められるよう、必要な知識や準備すべき事項を学ぶ。	○			◎		4,5,17	
	ビジネスキャリアIIB	1	必修		3年次からの専門ゼミナール導入教育として演習活動に必要な基本を、プレゼミ的に指導する。当該コース教員による演習を通じ、所属分野に対する学生の興味を喚起し、3年次からの専門ゼミナールにつなげられるよう、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。また、就職活動を円滑に進められるよう、必要な知識や準備すべき事項を学ぶ。	○			◎		4,5,17	
	ビジネスキャリア実践A	1	選択		近年、就職活動は前倒しの傾向が強まっていることやインターンシップを活用した学生が内定を受けるケースが多くなっている。このような現状を踏まえ、より早期に職業選択のための知識を学び、積極的に情報収集、行動していく観点から、自己分析の行い方、履歴書・エントリーシートの作成方法を学ぶとともに、面接、インターンシップ、就職情報サイトの活用方法、適性検査についての情報や知識を修得していく。				◎		8,17	
	ビジネスキャリア実践B	1	選択		この科目では、一般企業における業界研究の方法やビジネスマナーを学ぶとともに、就職活動の実践例を通して就職活動の具体的な行い方を理解しながら、個人の進路・職業選択に応じた能力を作り上げ、キャリア形成を図っていく。				◎		8,17	
	キャリアプランニングA	1	選択		近年、就職活動は前倒しの傾向が強まっていることやインターンシップを活用した学生が内定を受けるケースが多くなっている。このような現状を踏まえ、より早期に職業選択のための知識を学び、積極的に情報収集、行動していく観点から、自己分析の行い方、履歴書・エントリーシートの作成方法を学ぶとともに、面接、インターンシップ、就職情報サイトの活用方法、適性検査についての情報や知識を修得していく。				◎		8,17	
	キャリアプランニングB	1	選択		この科目では、一般企業における業界研究の方法やビジネスマナーを学ぶとともに、就職活動の実践例を通して就職活動の具体的な行い方を理解しながら、個人の進路・職業選択に応じた能力を作り上げ、キャリア形成を図っていく。				◎		8,17	

海外ビジネス研修I	2	選択		米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。本研修参加によりグローバル経営についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。			◎	○				8,17
海外ビジネス研修II	2	選択		米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。本研修参加によりグローバル経営についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。			◎	○				8,17
海外ビジネス研修III	2	選択		米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。本研修参加によりグローバル経営についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。			◎	○				8,17
海外ビジネス研修IV	2	選択		米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。本研修参加によりグローバル経営についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。			◎	○				8,17
インターンシップ	2	選択		本授業は国内における民間又は公的組織のインターンシップ(就業体験)であり、企業などでの就業体験を通じて、『仕事をする意味』に気づき理解することを目標とする。また、大学での授業から学んだ企業経営の『理論』などを現場体験によって『確認』することも、授業目標となる。			○	◎	○			8,17
経営学総論	2	必修	○	経営学は、基本的には社会の経済活動の担い手たる企業を研究対象として、学際的かつ広範な分野を取り扱っている。企業は「ヒト、モノ、カネ、情報」の4つの資源をうまく活用しながら、モノやサービスに付加価値を付け、それを社会に提供することで利益を獲得し、また経済活動を継続している。その経営学の特徴を理解しながら、自己の考察力、洞察力を深めていってもらう。	◎	○				○		4,9
企業と社会	2	選択	○	企業は、単に社会の経済基盤やシステムを構成するだけでなく、その活動を通じて社会の仕組みに影響を与えている。社会と企業の相互関係を複眼的に捉え、基本的な知識を身につけながらも、学生個々の社会人としてのあり方について考える機会にしてもらいたい。また、日本社会に限らずグローバル化が進化する世界が、どのような仕組みであるかについて理解を深めてもらいたい。	◎	○				○		1,4,8,9,12,17
ミクロ経済学の基礎	2	選択		本講義は、経済学を始めて学ぶ学生に「ミクロ経済学的思考」を身につけさせる。そのために、ミクロ経済学の基本的な用語や概念を説明できる、個々の経済主体の行動や市場メカニズムを説明できる、ミクロ経済学を現実の経済問題に当てはめ自ら分析することができることなどの習得を目指す。	◎							11,12,16
マクロ経済学の基礎	2	選択		本科目はマクロ経済学に関する基礎的な知識や理論を身に付けて、経済の仕組みや動きを説明できるようにする。それに向けて本科目で身に付けた基礎的な知識や理論を使って経済に関連するニュースを理解し説明できるようにする。	◎							11,12,16
消費生活と行政	2	選択	○	消費者政策・消費者行政・消費者経済学・消費者教育論を取り上げ、望ましい消費者行動について考えます。消費者庁『消費者白書』最新年度版から、今、課題になっている事象について具体的に取り上げます。また、生産者（事業者）のみならず消費者も重視される経済社会の在り方について考えます。	◎	○						11,12,16
流通論	2	選択		経済全体の中での流通の役割や流通機構への理解を深める。流通業の基本機能は産地や製造業と消費者を媒介することだが、単にモノを右から左へと流すだけでなく付加価値を加えることが重要になっている。最近の製造小売業が躍進や小売業者のPB製品開発、コンビニチェーンにおける投機的生産流通から延期的生産流通への転換などの具体例を説明しながら、いま日本の流通業がどこに向かっていくかを明らかにする。	◎	○						4,9,12
デジタルマーケティング	2	選択		デジタル情報を利用した新しいマーケティングの方法が急速に利用され始めている。マスメディアを中心とする従来のアナログ広告に代わって、インターネットのパナーや検索エンジン、携帯電話を中心とした新しいデジタル広告技術の利用が始まっている。本講座では、インターネットを中心とした新しいマーケティングの分野(デジタルマーケティング)の現状を把握すると共に影響力・可能性の分析を行う。	◎	○						4,9
マーケティングリサーチ	2	選択	○	本講義では、マーケティングリサーチを体系的に理解する。近年ではさまざまな種類のデータが取得可能となっていること、さらには多くのデータ分析手法も開発されてきていることから、マーケティングリサーチ、それに基づくマーケティング活動/戦略も変化を遂げてきている。これらを実例を交えて紹介することで深い理解と実践力を身に付ける。	◎	○						4,9
ロジスティクス概論	2	選択	○	ロジスティクスの概念とそれに関わる用語の理解を深め、企業ロジスティクスについての事例を通して、実社会においてロジスティクスがどのように機能しているかを理解することを目的とする。当該概念が生まれた背景、その必要性、そして実社会でどのように機能しているか、ロジスティクスの機能的側面を踏まえ、政策的側面から見たロジスティクス、産業としてのロジスティクスを事例を交えながら講義する。	◎	○						4,9,12
初級簿記	2	選択	○	複式簿記の意義、歴史、しくみを理解した上で、簿記一巡の流れについて修得する。具体的には、簿記上の取引、簿記の5要素と財務諸表、勘定の記入法則、試算表の原理、仕訳と転記について学ぶ。これらの理解を前提に、企業の経営活動に必須の取引に関する会計処理を個別論点として取り上げる。また決算整理の基本事項として、売上原価の算定、減価償却、貸倒引当金の設定、費用収益の見越し・繰り延べについて学ぶ。	◎	○						4,17
中級簿記	2	選択	○	複式簿記の基本原則（特に仕訳と転記）を理解していることを前提に、株式会社会計を中心に修得する。株式会社の意義、歴史、制度を理解した上で、株式会社に関する会計処理を学ぶ。また現在の会計実務はコンピュータによる処理が一般的であるが、その処理体系において補助簿の重要性が増している。このことを勘案し、補助記入帳と補助元帳の役割と記帳方法についても学ぶ。	◎	○						4,17

会計学I	2	選択	○	会計学は、簿記論と並行して理論と技術の融合を図る目的で、簿記論を補完する目的から、企業会計の公準、一般原則、貸借対照表原則、損益計算書原則などの会計の法規範を土台に会計が成り立っていること並びに、企業経営一般の日常取引や報告書は、すべて会計学の中に出てくる文言や、処理方法で構成されています。テーマとして「商流の中での位置づけを肌感覚で認識し、自己啓発と創造性を養う」です。	◎						4,17
会計学II	2	選択		会計IIも簿記論と並行して理論と技術の融合を図る目的で、理論を加味して、社会人基礎力を重視しながら、諸規則を万遍なく理論展開と理論から裏打ちされた、項目別の会計処理と決算財務諸表を読むことの解説を丁寧に説明する。同時に、商流の中での位置づけを肌感覚で認識し、自己啓発と創造性を養いつつ前に進むことを目的とする。	◎						4,17
ファイナンスの基礎I	2	選択		本授業ではファイナンスの第一歩として、まずは不確実性のない（明示的に考慮しない）世界でのファイナンスについて学ぶ。内容的にはファイナンスを理解するうえで必要な高校数学や記述方法を復習したうえで、初歩的な金融論、金利、債券価格、NPVによる評価手法について学修する。	◎	○					4,17
ファイナンスの基礎II	2	選択		本授業ではファイナンスの基礎Iで学んだ内容を前提として、不確実性を考慮する世界でのファイナンスについて学ぶ。内容的には不確実性を取り扱う確率論や統計を復習したうえで、株式投資、株式分析、デリバティブなどについての基礎を学ぶ。	◎	○					4,17
経営情報基礎論B	2	必修	○	情報通信技術の基本知識の中から、経営情報分野での業務を将来行っていく上で身につけておくべき知識である、情報システム戦略、業務プロセス、ソリューションビジネス、システム利用促進・評価、システム企画、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査について取り上げ、理解を深めていく。	◎	○					4,9
情報システム論	2	選択	○	情報システム構築に必要な知識ある、情報システムの体系、情報システムの基本概念・構成要素、コンピュータの概要、基本ソフトウェア、ネットワーク、ストレージ、情報システムの役割の変遷、情報システムの処理形態の変遷、クラウド&マルチクラウドの普及、情報セキュリティ、サイバー攻撃、コンピュータネットワーク、TCP/IP、データベース設計・正規化、IoT、機械学習など、基本から時事的な問題・技術について学習する。	◎	○					4,9
情報化戦略とマネジメントA	2	選択		テーマは、経営情報関連の情報通信技術の基礎である。到達目標は、ITパスポート試験で出題される大分類項目のうち、企業と法務、経営戦略に関する問題の70%を確実に正解できる能力を身につけることである。情報通信技術の進展に伴い、情報通信技術に関する基本的な知識修得が必須であることから、情報通信技術の基本知識の中から経営情報分野での業務を将来行っていく上で身につけておくべき知識を取り上げ、理解を深めていく。	◎	○					4,9
情報学演習A	2	選択		本授業では、IT化された社会で働くすべての社会人が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である「ITパスポート試験」に合格するレベルにまで達する幅広い分野の総合的知識を身につけることを目標とする。「ITパスポート試験」の合格のため、テクノロジー系の内容について理解を深める。	◎	○					9
情報学演習B	2	選択		本授業では、IT化された社会で働くすべての社会人が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である「ITパスポート試験」に合格するレベルにまで達する幅広い分野の総合的知識を身につけることを目標とする。ITパスポート試験の合格のため、ストラテジ系およびマネジメント系の内容について理解を深める。	◎	○					9
情報理論	2	選択		テーマは、情報理論の基礎である。2進数、8進数、10進数、16進数の基数変換、数値および文字データの表現方法、数値演算の誤差、論理演算についての知識が確実に身につくようにする。到達目標は、基本情報技術者試験で出題される情報理論に関する問題の70%を確実に正解できる能力を身につけることである。	◎	○					4,9
情報ネットワーク論	2	選択	○	講義では、情報ネットワークについての基礎知識を身につける。情報通信の歴史やネットワークの仕組み、インターネットで利用される通信規約・使用機器とその性質などを理解する。情報通信技術は日々進歩するが、根本は変化することも陳腐化することもない。第4次産業革命の中核技術であるIoTやAIとネットワークの関係についても触れる。	◎	○					4,9
グローバル・コミュニケーション総論	2	選択	○	急速に進んでいるグローバル社会において必要とされるコミュニケーションの基礎理論と知識を学修する。ヒト・モノ・カネ・情報のグローバル移動が容易になり、海外とビジネスを行う機会が増えている中で、コミュニケーションや文化はどのような役割を果たしているのかについて理解する。グローバル組織で最も大切な双方向でのコミュニケーション能力を養うことを目標とする。	◎		○				4,5,17
経済学入門	2	選択	○	現実の社会は複雑であり、社会問題に対する唯一の答えを導く唯一の手法など存在しないが、経済学の基礎を身につけることは、世の中のしくみを理解し、自分の頭で思考することにつながる。さらに、世の中に溢れる玉石混交の情報に対して疑問を持ち、自分の考えを述べる事ができるようになる。本講義で学ぶ経済学的思考方法は、経済だけでなく経営学、身近な生活、そして人生の選択においても応用できるであろう。			○	◎			8
経済原論A	2	選択	○	本講義では『教養としての政治経済』という著作を中心に講義を進めていく。現代社会を理解しようとするとき、やはりその背景にある大きな歴史的流れをつかんでおくことが必要である。本講義を通じて現在の社会が置かれている位置づけと方向性について一定の理解を得られるよう幅広い内容で講義を行っている。	◎	○				○	1,8,10
経済原論B	2	選択	○	経済原論aで学んだ基礎的な経済学的な知識をもとに、マクロ経済学、ミクロ経済学、財政学、国際経済学といった専門に進むための基礎をさらに深めていく。本講義では経済原論a同様に『教養としての政治経済』という著作を中心に講義を進めていく。テーマとしては後半の近現代社会の諸問題が中心となる。	◎	○				○	1,8,10

専門基礎科目群

法律学概論	2	選択	○	健全な市民社会の一員、また将来ビジネスマン等として、法律について一通りの常識を身につけておく必要があることを念頭に、法とは何か、法と裁判、国家と法、家庭生活と法、経済活動と法等といった基本的なテーマについて、身近な事例をとりあげながら、講義する。同時に、本講座においては、公務員試験などの資格試験を目指す者に対して、ミナモトな知識を修得することができるよう、内容を配慮する。			○	◎			16
日本の歴史A	2	選択		日本の前近代史の展開について、テーマごとに概説する予定である。文化や思想の歴史についての理解が深まるように工夫する。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。授業のなかでは適宜歴史を語る史料も適宜紹介する。			◎				4
日本の歴史B	2	選択		日本の近現代史の展開について、政治史を中心に概説する。適宜、文化や思想の歴史にも触れる。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。授業のなかでは適宜歴史を語る史料も適宜紹介する。			◎				4
外国史概説	2	選択		この講義では、アジアと世界の現在を理解するために、マカオ・香港というふたつの植民地の歴史的な展開から見た広い意味での東西交流史・東アジア近現代史を世界史的な視点から学習する。明清期及び中華民国期のマカオ・香港史を通して近代東アジアにおける植民地の歴史的意義について考究しながら、地球規模の貿易と文化交流の拡大を南アジア史・ヨーロッパ史・南北アメリカ史も視野に入れて講義する。			◎				4
地理学A	2	選択		地球の歴史、構造、気候、自然環境及び地形から、そこに住む人々の生活営みから、地理学を学ぶ。つまり、人間活動以外の部分である自然地理と人間が作り上げてきた或いは深く関わってきた環境、両面から地理学を学習する内容で授業を展開する。			◎				4
地理学B	2	選択		人文地理学の理論と方法、人間生活、経済活動、現代的諸課題の分野について学ぶ。人文地理学の理論と方法では、地理学の科学としての展開や主要概念、研究の手法等について学ぶ。人間生活では、人間による環境認知や居住空間の構成等を、経済活動では、大分類された産業ごとにその地域的特色や空間構造を学ぶ。その他、現代的諸課題について学ぶ。			◎				4
地誌	2	選択		日本及び世界におけるさまざまなスケールの地域を取り上げて、地誌学の方法とともに、人々が生活を営む各地域の特徴について考察し理解を深める。指定された世界の国または地域のうちから1つ選んで、地誌を試作して発表することにより、地誌作成の方法を身につける。			◎				4
政治学入門	2	選択	○	主権を持つ国民国家のシステムは17世紀のヨーロッパに誕生したが、人の集団が互いの安全や福祉のために協力したり、議論したり、誰かに決定権を委ねるといったことは太古から行なわれてきた。これらは広い意味での「権力作用」であり、「政治現象」である。権力について考察を加える政治学が最も古い社会科学のひとつである所以である。本講義では「国家と政治」を学問的に読み解くための基本的な道具・枠組みを提供したい。			◎	○			16
アロマセラピーⅠ	2	選択		アロマセラピー（芳香療法）は植物から抽出された精油を用いる自然・植物療法であり、心身のセルフケアはもちろん、医療や福祉分野などにおいても活用されている。本講義では、精油についての基本的事項、香りを感じる嗅覚のしくみ、香りの歴史、アロマセラピーに関わる法律、解剖生理学などについてテキストやDVDを用いて幅広く学習するとともに、精油を用いた実習を行いアロマセラピーを体験する。			◎		○		3,12,15
アロマセラピーⅡ	1	選択		アロマセラピーⅠでアロマセラピーの基本を学んだうえで、アロマセラピーⅡではさらに日々の生活で実践できる技能を身につける。リラクゼーションやストレスコントロール、また自律神経系、内分泌（ホルモン）系、免疫系などのアロマセラピーが得意とするケアについて理論的および実践的に学ぶ。			◎		○		3,12,15
スポーツ科学C	1	選択		本授業では、主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。スポーツ種目は、ティー（ソフト）ボール、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球などから3-4種目を行う。			○		◎		3, 10, 16
スポーツ科学D	1	選択		本授業では、主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。スポーツ種目は、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、インディアカ、インディアカ、テニスなどから複数行う。			○		◎		3, 10, 16
心と身体の科学	2	選択	○	この授業では、人間が加齢に伴って、身体的にどのように発育・発達、老化していくのか、また心理社会的にどのように発達していくのかを学ぶ。特に、スポーツや運動が心と身体の問題にどのような影響を及ぼすのかについて考えていきたい。身体の科学として、老化のメカニズムについて学習し、ライフステージに応じた運動の方法を探る。			◎			○	3
健康管理概論	2	選択	○	本授業では、現代を取り巻く社会環境と健康との関係を明らかにした上で、主に疾病（生活習慣病など）および健康の維持増進が、運動とどのように関わっているかについて理解することをねらいとする。授業を通じて、健康増進に対するこれまでのあゆみや、日本の施策や法律を学び、各国と比較して検討したり、近年のITを用いたパーソナルヘルスレコードやSNSを用いた健康増進について学んだりする。			◎			○	3, 11
Basic Writing Skills I	2	選択		In each class students will study an aspect of writing from the class textbook, then practice the skills learned through short writings. In addition, the students will complete in-class writing assignments related to their textbook assignments. At the end of the course, students will submit a portfolio of their work.			◎				4

Intermediate Practical Discussion Skills I	2	選択	As a speaking, conversation and discussion course, students will have the opportunity to speak and discuss with partners in pairs and small groups. Through ongoing practice students will leave the course with more confidence in their speaking, discussion and listening skills.			◎				4
Intermediate Reading Skills I	2	選択	Students will read texts from magazines and newspapers, exploring high-interest issues and taking part in discussion activities relating to the content and topic of the reading passages. Students will answer comprehension quizzes about the readings and be tested on the new vocabulary items that are necessary to understand the reading passages in the textbook.			◎				4
日本語 III	2	選択	この授業では、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいく。学んだ言語知識を実際に使えるようにするために自分の言葉でまとめたり、意見を述べたりできるようにする。最後は発表したり議論したりして学びの成果をまとめる。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要。			◎				4
統合日本語 III	2	選択	学部につながる学び：内容言語統合型学習 (CLIL)の4つのC (内容、言語知識・言語使用、思考、協学)の学習方法を用いる。この授業でも学習者は能動的に参加し、協働学習を通じて、発話力や表現力を養う。この授業ではオーセンティックな言語素材から言語を学ぶ。SDGsなど世界の話題について統合的に学んでいく。			◎				4
ビジネス日本語 I	2	選択	社会とつながる学び：N1合格相当を対象とする。この授業では、ビジネスマナーの基本、敬意表現と機能表現などを学ぶ。そして、ビジネス場面から会話文やマナーを学ぶ。そして、企業文化などは、ケーススタディを読んだりディスカッションしたりする。ビジネスに関する語彙やクッション言葉なども学ぶ。			◎				4
ビジネス日本語 II	2	選択	社会とつながる学び：N1合格相当を対象とする。この授業では、アポイントの取り方、会議に参加する、クレームを受ける・報告する・処理する、会議で提案する、催促する、交渉するなどのビジネス場面から会話文を学ぶ。そして、企業文化などは、ケーススタディを読んだりディスカッションしたりする。ビジネスに関する語彙や前置表現、敬意表現などを学ぶ。			◎				4
キャリア日本語 (就職)	2	選択	社会とつながる学び：ビジネスコミュニケーションのためのケーススタディや就職のための日本語(履歴書、面接、企業分析)を学ぶ。この科目は、社会に出るための準備クラス。この授業では就職活動のための日本語を学ぶ。また、授業では、コミュニケーション能力を上げるために、テーマ別に調べる・考える・話し合うなどディスカッションを中心に授業を進める。また、協働で学び合う力も養う。			◎				4
キャリア日本語 (進学)	2	選択	この授業は、大学院進学のための必要なスキルと論文の書き方を主に学ぶ。具体的には、大学院の探し方、大学院の分析、資料の取り寄せ方、志望動機の書き方などを学ぶ。専門については、学習者が自ら資料を探し、発表し、学部で身につけておかなければならない自分の専門について、語れる、発表できる、論じられる内容の知識を身につける。			◎				4
Fundamentals of Japanese A	4	選択	This course is intended to give you the opportunity to make the most of your chance to speak and interact in Japanese while you are here in Japan. Accordingly, your transition from textbook Japanese to more practical 'survival' Japanese will be guided by both the Genki course textbook as well as materials we will prepare with regard to the Survival Japanese class periods.			◎				4
Fundamentals of Japanese B	4	選択	This course is intended to give you the opportunity to make the most of your chance to speak and interact in Japanese while you are here in Japan. Accordingly, your transition from textbook Japanese to more practical 'survival' Japanese will be guided by both the Genki course textbook as well as materials we will prepare with regard to the Survival Japanese class periods.			◎				4
Fundamentals of Japanese C	4	選択	This course is intended to give you the opportunity to make the most of your chance to speak and interact in Japanese while you are here in Japan. Accordingly, your transition from textbook Japanese to more practical 'survival' Japanese will be guided by both the Genki course textbook as well as materials we will prepare with regard to the Survival Japanese class periods.			◎				4
Fundamentals of Japanese D	4	選択	This course is intended to give you the opportunity to make the most of your chance to speak and interact in Japanese while you are here in Japan. Accordingly, your transition from textbook Japanese to more practical 'survival' Japanese will be guided by both the Genki course textbook as well as materials we will prepare with regard to the Survival Japanese class periods.			◎				4
Intermediate Japanese Skills A	4	選択	This course is intended to provide students the opportunity to enhance students' four skills and also to utilize intermediate-level grammar and structural patterns in real life situation. Students should be able to read and write materials beyond beginning-level Japanese.			◎				4
Intermediate Japanese Skills B	4	選択	This course is intended to provide students the opportunity to enhance students' four skills and also to utilize intermediate-level grammar and structural patterns in real life situation. Students should be able to read and write materials beyond beginning-level Japanese.			◎				4
JLPT Preparation A	2	選択	日本語をJLPTN 4合格レベルまで上げます。それと同時に、日本での生活や、学校で使える日本語を学びます。Increase your Japanese to the level of JLPTN4 passing. At the same time, students will learn Japanese that can be used at school and life in Japan.			◎				4
JLPT Preparation B	2	選択	JLPTのN2レベルの達成を目指す。N2レベルの読解・聴解の試験対策と共に、日本語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能をN2レベルかそれ以上に底上げすることが目的である。具体的にはテキストやクラスで学んだことを活用して①日本語の新聞が辞書を使ったり解説を受けながら理解できる、②まとまった文章がととのった表現で書ける、③ニュースが解説を受けながら理解できる、④きちんとした表現で発表ができることを目指す。			◎				4

ゲーム理論	2	選択		本授業ではゲーム理論の基礎的導入から出発し、さまざまな具体的事例についてディスカッションを行い、理解を深めることを目指す。授業の前半では特に非協力ゲーム理論について学修し、時間が許せば、協力ゲーム理論についても扱う。	◎							4,9
行動経済学	2	選択		行動経済学は「人間の行動は必ずしも合理的でない」ことに焦点を当て、より現実に即した人間の経済活動を可能にする。本授業ではそのような行動経済学の基礎を理解し、行動経済学的観点から実際の経済活動の分析を行う。受講生には行動経済学がマーケティングや広告などへ応用されている具体的な事例についての調査を行ってもらい、グループディスカッションや発表を通して、その理解を深めることを目指す。	◎							4,17
経営戦略論	2	選択		本講義では、伝統的経営戦略論の理論や研究成果を中心に、経営戦略論を体系的に理解・修得し、戦略的に思考することの意味について一緒に考えていきたい。また、これまでの研究で蓄積された良質な事例を紹介しながら、経営戦略の実践的なテーマやトピックについても扱い、理論と実践の両面から理解を深めていく。講義の節目で講義内容の復習と知識や理論の応用力を磨くために、ケーススタディを取り入れる予定である。	○	○				◎		9,12,17
人的資源管理論	2	選択		人事労務管理に関する理論の概要について知識として修得する。その上で、当該各理論が実社会においてどのように活用可能かについて、実体験（アルバイト、インターンシップなど）を踏まえながら、自分の言葉で具体的に説明できるようにする。	◎	○				○		8
経営組織論	2	選択		本講義で経営組織論の理論や研究成果(事例研究など)を中心にヒトや組織のマネジメントを体系的に理解・修得し、身近なヒトや集団・組織に対する理解や考察を深めていく契機にしてもらいたい。ヒトや組織のマネジメントに関する実践的なテーマやトピックについて理論と実践の両面から理解を深めていく。	○	○				◎		8,9,17
組織行動論	2	選択		組織行動に関する理論の概要について知識として修得する。その上で、当該各理論が実社会においてどのように活用可能かについて、実体験（部活動・サークル活動、アルバイト、インターンシップなど）を踏まえながら、自分の言葉で具体的に説明できるようにする。	◎	○						4,9
消費者行動論	2	選択		日々私たちが行う消費という行為がどのようなメカニズムで生じているのかを、自分の頭で考えるきっかけを提供することが本講義の大きな狙いである。ただ「お勉強」するのではなく、自分の行動も含め、概念や理論を具体的な消費現象に当てはめてみて分析できるようになることを目指す。	◎	○				○		4,16
国際マーケティング論	2	選択	○	マーケティングの基礎を学び、国際マーケティングにおける諸問題を考察することを授業の狙いとする。企業の経済活動と国際経済の関係について学び、国境を超えて活動する多国籍企業の動向を学ぶことを通じて、広い視野から物事を判断できるようになってもらいたい。多国籍にビジネスを展開する企業のマーケティングとは如何なるものなのかを考え、また企業はどのような問題に直面し、どのように問題を解決しているのかを学ぶ。	◎	○						8,9,12
マーケティングサイエンス	2	選択		有効なマーケティングを実行するためには、データを活用することが求められてきている。本講義では、そのデータ分析に用いられる手法を学習し、身に付けることで実践的な能力を養うことを目的としている。	◎	○						4,9
ブランド戦略論	2	選択		本講座では理論とケースから、ブランドについての理解を深め、ブランドに関連する理論と基本的な概念を理解し説明できること、企業のブランドへの取り組みについて、自分なりの分析と解釈が述べられること、自分なりのブランドに関する戦略が提案できるようになることなどの3点の習得を目指す。	◎	○						4,9
国際ロジスティクス論	2	選択		貿易論的、物流論的、情報ネットワーク論的な視点から国際ロジスティクスを学習する。また、国際ロジスティクスをビジネスとする企業を取り上げ解説していく。講義内容は①貿易、②物流、③情報ネットワークと情報交換（EDI）、④国際ロジスティクスビジネスで構成される。	◎	○						4,9,12
会社法A	2	選択	○	会社法は千を超える条文によって構成され、学習範囲が極めて広いため全ての部分を講義できないが、会社法の重要なテーマである設立、株式、機関制度などのテーマを中心にメリハリをつけて講義していく予定。講義を受講する諸君に対し、受講内容をより理解してもらうため、会社法は学生にとっては理解しにくい法律と思われることから、授業では指定した基本テキストを使用。	◎				○	○		16
会社法B	2	選択		会社法の基本的知識を習得することを目標とする。会社法の基本的知識を身につけると、実社会に出てからも役立つ場面が多くあり、非常に有用となる。毎回の授業で課題も課すので、これらを通じて会社法の基本的知識の習得を心がけてほしい。	◎							16
税法A	2	選択		税法（租税法）とは、法人税法や所得税法といった租税に関する法を総称したものです。税金は私たちの生活とは切り離せないものなのですが、税法（租税法）は憲法や民法などと比較すると、なじみの薄い法律ともいえます。授業では、法人税法及び消費税法に関して、難解といわれる法律用語をできる限り簡単に説明し、皆さんが興味をもてるような具体的な事案を通じて税法（租税法）の理解を深めていきます。	◎				○	○		16
税法B	2	選択		税法とは、法人税法や所得税法といった税に関する法を総称したものである。税は私たちの生活とは切り離せないものであるが、税法は民法や会社法などと比較すると、なじみの薄い法律ともいえる。この授業では、税に関する理論を理解し、特に個人に対する税に関して、難解といわれる法律用語をできる限り分かり易く簡潔に解説し、学生の皆さんが興味をもてるような具体的な事案を通じて税法への理解を深めていく。	◎				○	○		16
財務諸表論A	2	選択		財務諸表論は、株式会社の成立要件を十分に理解するとともに、現行の制度会計の視点から企業会計原則および会社計算規則を基本原理とし、それに基づく企業財務の考察を通して、財務諸表の作成を法令との関連から包括的に理解する。なお、「現行の減価償却制度と2007年変更法人減価償却制度の比較検討」をテーマとし、物の本来価値を肌感覚で体得する事を目標としています。	◎							4,17

財務諸表論B	2	選択		財務諸表論bを修得した学生を対象にして、「理論と並行した実践」をテーマに掲げ、企業の置かれている現状を把握したうえで、企業の資産評価から金融商品に係る会計基準までを、実務中心に理解する事を心がけ実践して行く事で、国際社会の中で日本の企業が置かれている立場や、今後の課題についても考察していきます。	◎						4,17
財務会計特論	2	選択		本授業では財務会計に関する事柄を取り扱うこととするが、その特徴点として、連結等の有価証券報告書の読みこみ等をテーマとするなど、アクティブラーニングを中心に進め、より実践的な能力の向上を目指すものである。	◎	○				○	4,17
原価計算論I	2	選択		原価計算の主要な目的は、それぞれの時代の利害関係者の情報要求によって、大きく変化し現在に至っている。この授業では、さまざまな目的による原価計算の基本的な理論を理解し、具体的な計算方法を修得することを目標とする。学習するテーマは、原価概念・費目別計算・製造間接費の配賦・製品別計算を対象とする。	◎	○					4,17
原価計算論II	2	選択		原価計算の主要な目的は、それぞれの時代の利害関係者の情報要求によって、大きく変化し現在に至っている。この授業では、さまざまな目的による原価計算の基本的な理論を理解し、具体的な計算方法を修得することを目標とする。学習するテーマは、総合原価計算の応用・原価管理・利益管理・CVP分析の基本を対象とする。	◎	○					4,17
管理会計特論	2	選択		管理会計の考え方や基礎知識を習得し、基本的な計算問題も解けるようになることを目標とする。管理会計の知識や考え方を身につけると、実社会に出てからも役立つ場面が多くあり、非常に有用となる。具体的には、学習した論点につき、日商簿記2級（工業簿記部分）や日商簿記1級（工業簿記・原価計算）レベルの問題が解ける程度の知識を身につけることとする。	◎	○				○	4,17
財務分析A	2	選択		財務分析とは、財務諸表を用いて対象企業の経営状況を診断することを指し、典型的な「会計情報を使う」分析技術となる。金融機関や事業会社の経理・財務部門においては、当該技術によって各会社の収益性・流動性・成長性・生産性の分析を行っており、その業務の根幹をなしている。本授業では経営分析論の基礎的な知識を身に付け、実際の財務諸表から各種の指標を用いて簡単な経営分析を行えるようになることを到達目標とする。	◎	○					4,17
財務分析B	2	選択		財務分析とは、財務諸表を用いて対象企業の経営状況を診断することを指し、典型的な「会計情報を使う」分析技術となる。金融機関や事業会社の経理・財務部門においては、当該技術によって各会社の収益性・流動性・成長性・生産性の分析を行っており、その業務の根幹をなしている。本授業では経営分析論の基礎的な知識を身に付け、実際の財務諸表から各種の指標を用いて簡単な経営分析を行えるようになることを到達目標とする。	◎	○					4,17
ファイナンシャルプランニング論A	2	選択		ファイナンシャルプランニングの基礎およびFP資格6教科の中で2教科を学ぶ。ファイナンシャルプランニングの必要性とその手法について理解し、FPの社会的意義を学ぶ。金利計算、資金計画に必要な係数の利用方法、社会保障制度の医療、年金制度、税体系と制度、所得税の計算方法を学び単なる知識習得ではなく、国の諸制度を理解する。	○	◎				○	12
ファイナンシャルプランニング論B	2	選択		本講義ではFP論Aに引き続きFP検定6科目のうち4科目（リスクマネジメント・金融資産運用・相続・不動産）を重点的に学習。リスクマネジメントでは保険の基礎知識から必要保障額の算出方法を修得する。金融資産運用では、各種金融商品とそのリスクについて正しい知識を学び、これら知識の修得は望ましい金融行動につながる。人生100年時代の私達の生活に必要な資金をどう運用し活用するか包括的に学ぶ。	○	◎				○	12
コーポレートファイナンス	2	選択		ファイナンスやコーポレート・ファイナンスに関する基本的な用語の意味を理解し、事業評価や企業価値評価などで利用される基本的な評価モデルを使って企業価値評価ができるようになることである。多くの企業にとって財務活動は、経営上で必要不可欠な行為となっている。企業の資本調達と運用、その結果として企業の価値(株価)がどのように向上するのかを明らかにしていく。	◎	○				○	4,17
インベストメントファイナンス	2	選択		20世紀の半ばに確率されたMPT(Modern Portfolio Theory)の確率は投資の方法を大きく変えた。本授業ではマーコウィッツの平均分散モデルの理解を図ったうえで、CAPM導出の理論を理解する。またこうした市場モデルが機関投資家の投資戦略にどのような影響を与えたのかについての理解を図る。	◎	○				○	4,17
ファイナンス特論	2	選択		アクティブラーニングを中心とする。近年の金融市場に重きをなす金融派生商品（デリバティブ）の基本的な理解を目標とする。また最も基本的かつ多用される二項モデルやブラックショールズモデルの原理や導出過程に対する理解を目標とする。	◎	○				○	4,17
ソフトウェア会計	2	選択		近年の企業での経理事務においては会計ソフトウェアを用いることが一般的である。本科目では「弥生会計」を用いて、会計の基礎知識を学修した学生を対象に、これまで学んできた会計理論が、会計ソフトウェアの中で実務教育と結びついていることの意味を理解する。また、経理・財務といった業務に対する興味喚起を目的とする。	◎	○				○	4,9
ビジネスデータ分析A	2	選択	○	本授業ではMicrosoft Excelを用いて、定量データの取り扱い方法とそれを利用した分析方法やグラフの作成方法、初歩的なVBAの使い方を学ぶ。Excelを自由に操作できるようになることを到達目標とする。内容的にはゴールシークやソルバーを用いた最適化、基礎的な統計分析、簡単なモンテカルロシミュレーション等を含む。	○	◎					4,9
ビジネスデータ分析B	2	選択		定量的なデータの取り扱い、現在のビジネスにおいては必要不可欠である。本授業ではRについての基礎知識を学ぶ。Rを使って多くの処理ができるような授業内容を構成する。	◎	○					4,9
情報セキュリティB	2	選択	○	ITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となってきた。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度などを踏まえ、情報セキュリティマネジメントを理解することを目標とする。	○	◎					4,9

情報化戦略とマネジメントB	2	選択		情報処理技術者試験の「基本情報技術者試験」におけるストラテジー分野について解説をする。受講者が「基本情報技術者試験」の合格レベルに達するようにするのが、本授業の到達目標である。企業と法務（企業活動、企業会計、経営科学、法務と標準化）、経営戦略（経営戦略・技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ）を学ぶ。	○	◎						4,9
情報学演習C	2	選択		IT(Information Technology；情報技術)とは、たくさんの情報を処理する際に使われる"コンピュータやコンピュータを動かすプログラムの技術"のことです。ITは、私たちの身の回りに深く浸透しており、企業で働く際にもITの知識は必須であると言えます。本授業では、基本情報技術者問題の演習を中心に実施する。	○	◎						9
アルゴリズムA	2	選択		本講義では、初心者を対象にアルゴリズムとは何かから初めてアルゴリズムの基礎的事項を教授する。まず、データ構造（変数・リスト・配列・スタック・キュー・木構造など）とアルゴリズムとの関係性を学ぶ。次に、データ探索（順次探索法・番兵法・二分探索法など）を例に基本アルゴリズムと処理効率について考える。	○	◎						4,9
アルゴリズムB	2	選択		アルゴリズムaでの学修を踏まえ、更に高度なアルゴリズムの理論を学ぶ。実用的レベルの処理のアルゴリズムが構築できることを目標とする。イベントチケットのキャンセル待ちを処理するプログラムや、大量データを如何に利用しやすく蓄積するか、またその巨大データ群から必要なデータを発見するにはどうすればよいかなどを学ぶ。	○	◎						4,9
モデル化とシミュレーション	2	選択		本講義では、コンピュータシミュレーションの実例を基礎から学ぶ。社会科学と自然科学の分野から理論的枠組みの簡単な問題を幾つか取り上げて、モデル化及びシミュレーションを行い、コンピュータシミュレーションによる問題解決の実際を知る。	○	◎						4,9
プログラミングA	2	選択		この授業ではC言語の基礎を理解し、簡単なプログラムの読み取り、書き取りができることを到達目標とする。具体的には、C言語を使って初歩的なプログラム作成練習を行う。具体的な内容は、(1)データの型 (2)算術演算子と論理演算子 (3)条件分岐if文 (4)条件分岐switch-case文 (5)繰り返し処理for文	○	◎						9
プログラミングB	2	選択		この授業はプログラミング a を履修済みであることを前提とする（必須ではない）。プログラミング言語の C 言語の基礎をこの授業では取り扱う。前半はプログラミング a の復習をした後に、配列や文字列、関数の取り扱いについて学び、後半はポインタと構造体について学ぶ。学修した内容についての理解を確実なものにするため、授業内の所要所で例題や練習問題を解いてもらいながら授業を進めていく。	○	◎						9
プログラミングC	2	選択		到達目標は与えられたプログラムの動作の仕組みを理解し、説明することができること、プログラムのエラーを適切に修正することができること、独自のプログラムを作成することができることなどである。	○	◎						9
データベース	2	選択		テーマは、関係データベースの基礎的な知識を身につけることである。到達目標は、基本情報技術者試験で出題される問題の50%を確実に正解できる能力を身につけることである。データモデル、関係データベース、関係データベース言語SQL、データベースの制御といったデータベースの基礎的な知識について学び、データ資源管理も考察する。	○	◎						4,9
データマイニング	2	選択		テーマは、関係データベースの基礎的な知識を身につけることである。基礎的な知識には、関係データベースの数学的な土台、表の設計と実体関連モデル、SQLの基本構成とSQL文の基本的な書き方が含まれる。到達目標は、基本情報技術者試験で出題される問題の50%を確実に正解できる能力を身につけることである。	○	◎						4,9
ビッグデータ	2	選択		この授業は現在の企業経営で欠かせないビッグデータおよびAI（人工知能）について学ぶ。到達目標はビッグデータの特徴を適切に説明できること、ビッグデータの分析・解析方法を説明し、実践できること、AI（人工知能）の特徴を説明できること、AIのツールを利用し、判定結果を取得できることなどである。	○	◎						9
ICTプロジェクトマネジメント	2	選択		実際の情報システム開発プロジェクトを事例学習し、プロジェクトマネジメントの重要事項を実践的に学ぶ。到達目標は、情報システム開発プロジェクトのマネジメント方法の重要事項を説明できること、マネジメントの実践において留意すべき事項を説明できること、下層の開発プロジェクトにおいて、プロジェクト計画書を作成できることなどである。	○	◎				○		9
異文化コミュニケーション論	2	選択	○	国境を超えてビジネスを展開する企業組織で働くには、多様な文化を理解し、対応能力CQ（Cultural Intelligence）を高めていく必要がある。本講義では、異文化コミュニケーションの基本知識と主な理論を紹介する。また、様々なビジネス場面での異文化コミュニケーションスキルを養う。異文化社会に属する人々とコミュニケーションをとりながら、積極的に連携・協働することができる力を身につける。	○	◎						4,5,17
異文化組織マネジメント	2	選択		異文化組織マネジメントの基礎理論を紹介する。異文化組織が関わる課題、特に文化の違いから生まれる諸課題を検討する。さらにグローバル戦略において、文化の違いが組織に影響を与える重要性を認識し、多文化組織でのコミュニケーションの取り方を理解する。そして問題解決方法のシナジーを把握し、異文化間リーダーシップ、動機づけ、意思決定、国際交渉などの理論を理解し、グローバル・キャリアの土台を構築する	○	◎	○					4,5,17
Introduction to Global Management	2	選択		This is an introductory course in which basic management concepts will be introduced from a cross-cultural perspective. Students will be expected to increase their understanding of human behavior within a global work environment and to develop their skills of good reading habits in English. Students will be also expected to comprehend the importance of possessing a global way of thinking which may help them to prepare for their future careers in a worldwide business setting.		○	◎	○				17

経営管理総論	2	選択		経営学は実際の企業経営や組織運営の現場やそこで働く人間を対象とした応用科学という側面があり、さまざまな理論が展開されている。その経営学の諸理論のなかでも時代を越え、現代の企業経営の現場での実践や考察において有益と思われる原理原則・理論・フレームワークなどを中心にテーマ・トピック別に紹介する。講義内容の復習と知識や理論の応用力を磨くために、適宜ケーススタディ(事例研究)を取り入れたいと考える。	○	○			◎	8,9,12,17
人事労務管理論	2	選択		日本企業の人事労務管理の特徴といわれている終身雇用、年功序列、企業内組合といった「日本的雇用慣行」が、どのようなプロセスを経てわが国に定着し、どのように変化しつつあるのかを、海外の雇用管理の特徴と比較しながら明らかにする。「正社員と非正社員との格差」「若年離職」「ブラック企業」「過労死・過労自殺」「リストラ」等現実の労働問題に関するトピックを取り上げ、「日本的雇用慣行」との関係から解説を加える	◎	○		○	○	8
企業倫理論	2	選択		企業も社会的存在である以上効率性や経済性だけでなく、社会性や人間性という価値観を併せ持った企業でないと社会に受け入れられない。地球環境保全、社会貢献、人間尊重といった面での責任を共有しなければならない。本講義は企業倫理とは何かを皮切りに、不祥事発生リスクの軽減や、企業が継続的な発展に寄与するコンプライアンス体制、コーポレートガバナンス、ステークホルダーと企業の持続的な発展等を中心に学習していく。	◎	○		○		5, 8, 10
事業と継承	2	選択		事業承継とは、企業経営を現在の経営者から次の経営者に引き継ぐことによって事業の存続と発展を図ることである。一般的には、株式所有の移転と経営権の交代によって実現される。事業承継は経営者にとっての社会的責任である。ゴーイングコンサーン（永続的存在）として企業が存続するかどうかに事業承継は直結しているからである。これら事業承継や経営の世代交代に関わるさまざまな課題について理解を深める。	○	○			◎	8,9,12
金融論	2	選択		金融とは、家計、企業及び政府等の経済主体間で行われる資金(貨幣)の融通活動を意味する。近年の金融の世界は、ビットコイン、インターネットバンキング・スマホバンキングへの対応、生体認証、FinTechなどの新技術や、さまざまな異業種からの銀行参入あるいはキャッシュレス化など、話題に事欠かない。本講義では金融機関、金融市場、金融政策、最近の金融をめぐる潮流および課題について論じていく。	◎	○			○	8, 10
起業マネジメント論	2	選択		本講義では、経営者視点から経営環境に適応した経営計画づくり、事業継続と発展への取組みという一連の事業運営について概観し、分析・考察ができることを目標とする。また、事例研究では業種別の起業計画に関する評価を行うことによって、事業計画書づくりにおける応用・実践力を高めていくことを目標とする。	○	○			◎	8, 9
国際経営論	2	選択	○	経済および経営の国際化の進展にともない、主にアメリカで発展したのが国際経営論である。国内経営(Domestic Management)との対比を出発点として、おもに多国籍企業によるグローバルな経営活動の諸側面を研究対象とする。国際政治や国際法、国際経済動向も重要な研究対象の一部となり、その史的展開を学習した上で、現代の企業が抱える国際経営問題を考察していく。	◎	○	○		○	8,9,12,17
中小企業論	2	選択		日本の中小企業・小規模事業者数は、357.8万者とされ、実に全体の99.7%を占める。またこれら中小企業・小規模事業者の従業員数は約7割を占める。本講義では、この中小企業をめぐる経営環境や動向などを「中小企業白書」を中心にファクトベースで理解することから始める。また中小企業の経営課題や先進事例の具体的な分析・考察を通じて、中小企業の役割と経営活動の特徴について実践的に理解を深める。	◎	○			○	8, 9
地域振興論	2	選択	○	国土の7割を占める中山間地域は、自然豊かで、風土に根差した多様な文化が育まれ都会にはない魅力に満ちている。また森林資源や海洋資源といった再生可能な資源が豊富にある。「持続可能な社会」実現のためには、こうした国内の再生資源を活用することが重要である。本講義では、地域社会が有する「グリーンインフラ」について理解を深め、地域社会が活性化され、さらにそれが日本の活力となるためには何が課題となるのかを考える。	◎	○			○	8,11
国際経済学	2	選択		本講義では国際マクロ経済および貿易論の理論的解説を行う。重要なデータの分析手法を身につけた上で、日本と世界の経済構造の変化や為替レートの基礎知識を学ぶ。後半は貿易論の基礎的理論を学びながら、現在の国際経済体制が構築された歴史的経緯を理解し、近年の国際経済における諸問題を通して理論的解説と現実の政策について理解を深める。	◎	○	○		○	1,8,10,17
ミクロ経済学	2	選択		本講座ではミクロ経済学の基礎的な理論を習得することを目的としている。経済現象を数学モデルを用いて解析・分析することに主眼を置くので、数学の知識が必要とされるが、モデルを用いて人々の行動、企業行動、市場の動きを考察していく。交換論、需要分析、供給分析から、独占・寡占といった不完全競争理論や行動経済学も学習する。到達目標は、一般的な公務員試験に出題される試験問題に対し70%は正答できるようにしたい。	◎				○	1, 8, 10
マクロ経済学	2	選択		マクロ経済学は国家単位あるいは国際的な規模で生じる経済現象を理論的に説明するものである。よって数学モデルの解析が不可欠となる。本講座では基礎的なケインズのマクロ経済政策を学習し、その後、グローバル化下における経済政策の有効性や、日米など各国の事情に応じた経済政策について考察を進めていく。公務員試験の問題を取り上げ、一般的な公務員試験の問題を70%以上正答できるようにすることを目標とする。	◎				○	1, 8, 10
財政学	2	選択		本講座は財政学の基本的理解を目指すものである。財政学は経済学を基本としているが、政治学、行政学、法学、など様々な諸学問と関わる総合的な性格を有するが学問分野である。財政の歴史、租税制度、公債論、社会保障制度、公共財供給、諸々の経済政策や社会政策について講義を行う。	◎	○			○	1, 8, 10
民法A	2	選択		民法は民法学の基本法として、我々の日常生活に幅広く、且つ深く関わっている。本講義は、民法典の総則編・物権編を学習していく。また、民法に対する理解を助ける為、できるだけ多くの事例を紹介しながら学習する。学習内容が広範囲にわたるため、テーマ別にメリハリをつけて学習していく予定である。	◎				○	16

民法B	2	選択	民法は市民法として、我々の日常生活に幅広く、且つ深く関わっているが、我々自身が意外とその存在に気づかないでいる。本講義は民法債権編及び家族法の基礎知識の習得を講義目標としている。判例などを利用し理解を深める。	◎					○	16
国際法	2	選択	「国際法」とは、主に国家間関係を規律する法のことであるが、慣習法が多く存在するなど、その内容はわかりづらい。しかし、数多くの戦争を反省して人間が作ってきた、国際社会の平和のために必要不可欠なものである。本授業では、国際社会において「法」がどのような役割を果たしているのか、国際平和にどのように役立っているのか、という観点から国際法の基本構造と役割を学ぶことが目的である。	◎					○	16
環境政策論	2	選択	環境問題に対する政策について、公共政策として、国際的、国内的な両面から考察する。特に、政策決定過程、その主体となる諸組織、法制化された政策の行政含めた現実的過程の実態並びに効用を理解し、環境政策を形骸化された行政組織論以上のものとして、問題の本質をとらえる。また、政策決定に関わる諸主体の具体事例についても学ぶ。	◎					○	6,13,14,15
地域生態系保全論	2	選択	地域生態系は、地域の地誌的な環境とそこに生息する生物の総体として成り立つ生態系である。本講義では、保全生態学の基礎を学んだ上で、地域の自然環境における現状と課題を整理し、生態学的な観点からその保全と活用について考える。特に近年、地域の自然環境が住民のアメニティーや教育、また防災などを支えるインフラとしての機能を持つことが再評価されている点について学ぶ。	◎					○	4,6,9,11,13,14,15
体づくり運動	1	選択	本授業は、「体づくり運動」の意義を十分に理解した上で、「体ほぐしの運動」については、用具を用いない運動、およびボールなどの用具を用いて行う運動に分けて学ぶ。また、「体の動きを高める運動」及び「実生活に生かす運動の計画」については、持久力、筋力、柔軟性および巧緻性が向上する運動を行い、それを実生活にどのように生かすかについても学ぶ。その後、それぞれの運動についての指導法を学び、身につけていく。	◎					○	3, 4
器械運動	1	選択	器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や補助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。本授業では、学生同士による知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、授業を通じてコミュニケーション能力を養い、幅広い知識と教養の育成を目指す。	◎					○	3, 4
陸上競技	1	選択	運動の基本である走る、跳ぶ、投げることについて基礎を身につけ、所定の技能到達目標を達成する。また、集団行動を通して、視野を広く持ち同調性を身につけるとともに、その指導法を学ぶ。器具の取り扱いや安全管理について修得し、リスクマネジメントを学び身につける。運動の基本である走る、跳ぶ、投げるを記録と結びつけて理解させる。陸上競技の歴史、競技方法やトレーニング方法、ルール等の幅広い知識を修得させる。	◎					○	16
水泳	1	選択	到達目標は、水泳における4種目（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の泳法を習得し、100m個人メドレーが完泳できるようになることである。また、水泳・水中運動における基礎的な理論を理解し、水泳の4種目および水中運動（アクアビクス、水中レジスタンス運動）の指導ができるようになることである。この授業では、水泳、水中運動、および救助法について学ぶ。	◎					○	3
サッカー	1	選択	本授業では、サッカーの競技特性を理解しながら、サッカーを通じて豊かな生涯スポーツを継続する資質や能力を育む。また、到達するべき競技レベルに関しては、中学生・高校生を対象としたサッカー実技指導において必要と考えられる基本技術および技術を習得する。さらに習得した基本技術および技術をともにサッカーの指導方法について養うことを目的とする。	◎					○	3, 4
バスケットボール	1	選択	本授業の到達目標は、バスケットボールの①基本的な技術、②ルールや競技特性等の基本的な知識、③指導方法を、体育の実技指導を行うために十分な水準まで習得することである。授業では、基本的な技術を習得し、ルールや競技特性に理解を深め、バスケットボールの楽しさや難しさを体験する。さらに、基本的な技術や知識の習得過程で得た知見や自らの成功・躓きの経験を授業づくりの糧にして指導計画を作成し、指導実践を行う。	◎					○	3, 4
バレーボール	1	選択	本授業では、バレーボールの特性やルールを正しく理解し学校教育におけるバレーボールの必要性や意義について説明できること、個人技能の習熟を目指すこと、作戦を活かした攻防を展開してゲームができる力を身につけること、バレーボールの歴史、審判方法、ゲーム運営方法を学び、体育授業を行うための指導方法を身につけることを目標としている。また、健康・安全に留意して練習やゲームができるよう安全確保についても学ぶ。	◎					○	3, 4
ソフトボール	1	選択	ソフトボールの基本技術を学び、対象者やグラウンドなど状況に応じて、最も適したベースボール型の球技をカリキュラム・マネジメントできるようにする。指導法を学び、グループやチームで相互にソフトボール指導を行う。また、野球やソフトボールの歴史や現状から、ベースボール型の球技が日本において非常に馴染みがあることを学ぶ。中学校や高等学校でベースボール型の球技を実施する際の安全管理、ルール、戦術などを学ぶ。	◎					○	4
柔道	1	選択	日本で生まれた柔道は、現在、世界中で愛されるスポーツへと発展した。その柔道をスポーツ・武道・教育の側面から多角的に学び、教育の幅を広げることが本授業の目的とする。教育では、柔道の歴史や理念。武道では、礼法と受身。スポーツでは、立技・寝技の習得をそれぞれ行い、特に武道（礼法及び受身）とスポーツ（技の習得）を中心として行う。最終的には、試合形式での乱取りができる範囲までの習得を目指す。	◎					○	3, 4
ダンス	1	選択	ダンスは、リズム感や身体操作能力を向上させるために有効である。また、感情を込めて踊る、集団で踊ることにより、仲間と交流を持つことができる。本授業では、学校体育で行われるダンス（創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス）やエアロビックダンスの知識、技能、及び指導法について学ぶ。また、様々な課題に応じたグループでのダンスの創作・発表・鑑賞を通じて、協調性や課題発見・解決力も身につける。	◎					○	3, 4

スキー	1	選択		講義でスキーについて学び、集中講義で3泊4日のスキー実習を行う。初心者はスキーに慣れることから始め、制動、ブルークボーゲンおよびブルークターンを習得し、リフトを使い様々な斜面をコントロールしながら安全に滑れるようにする。経験者は、それぞれのレベルに応じてスキーおよび身体の操作能力を高め、安全確実な技術を身につける。また、事前に講義を行い、スキーの安全について学ぶ。	◎				○		4, 15
運動学(運動方法学を含む)	2	選択		授業では、体育授業やスポーツ指導場面などの実践現場の問題を取り上げる。このとき「どのようにすればできるようになるか」という学習者の問題と、「どのようにすればできるようにさせられるか」という指導者の問題があり、解決のために運動を身体で理解し、考えることが重要になる。運動学では、そのような運動に対する考えかたを学び、運動を身体で理解し、そして学習者に教えることができる能力を養う。	◎				○		3, 4
体育史	2	選択		知育、徳育、体育は教育の三本柱である。その中で体育は、スポーツを通して発展した文化的なものであり、深い歴史がある。その体育について、スポーツの起源と発展を時代の背景を通して欧米や日本を比較し、思想の違いや、どのように実践され応用されたかを知る。また現代社会の問題である健康との関係やスポーツ文化について、意義や役割を再認識し、心身の健康とのかかわり方が深く教育的効果があることを理解する。	◎				○		3
スポーツ心理学	2	選択		運動・スポーツは、気分、自己概念、パーソナリティなど心理的にも効果を与える。また、運動・スポーツの実践・継続のためには、動機づけの方法や行動変容理論を理解することが重要である。さらに、競技者・指導者にとっては、心の状態を適切にコントロールすることが好成績をあげる条件であり、メンタルマネジメントの技法が有効となる。本授業では、運動・スポーツの実践者・競技者・指導者の立場からスポーツと心の問題を学ぶ。	◎				○		3
運動生理学	2	選択		一過性の運動によって生じる身体の生理的な応答、および、継続的な運動(トレーニング)による身体の機能や形態の変化(適応)について学ぶ。主に筋系、神経系、呼吸器系および循環器系から、そのメカニズムを学ぶ。運動時の身体のはたらきを知るためのパフォーマンステストなどの知識やテクニックについて学ぶ。また、生理学的知識を基礎とした健康づくりのための運動プログラムの基本的な考え方についても習得する。	◎				○		3, 4
解剖生理学	2	選択		本授業では、人体の構造と機能の知識を解剖学と生理学の学問領域から学ぶ。これらを学ぶことによって、身体の働きをより科学的に説明できる基盤を獲得することができ、運動やスポーツを指導する場面において説得力のある指導を展開できるようになる。主に、各器官系(神経・感覚器系、内分泌系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系)の構造と機能について学ぶとともに、運動器(骨格と筋)の構造と動きの特徴について学ぶ。	◎				○		3
スポーツ栄養学	2	選択		スポーツの競技力向上や健康増進効果に対して、食事や栄養素が大きく影響することが知られている。そのため、スポーツの指導者に対しても食事や栄養に関する一定の知識が求められるようになってきている。そのため、本講義では指導者として必須の栄養学の知識を学び、科学的根拠に基づいて食事や栄養に関する知識や情報を踏まえて分かりやすく伝えたり、スポーツや健康づくりの現場で活用したりするための基礎能力を養う。	◎				○		2, 3
救急処置(実習を含む)	2	選択		救急処置は、事故や病気から自分自身や大切な人を守るための重要な知識・技術である。生涯にわたりスポーツ・運動を楽しむためには救急法の知識・技術が不可欠である。また、スポーツ・運動の指導者は、スポーツ事故のリスクマネジメントを行い、事故が生じた時には直ちに救急処置を行う必要がある。授業では、心肺蘇生とAED、内科的な急性・慢性障害への対応、整形外科的障害と外科的救急処置などについての理論と実践を学ぶ。	◎				○		3
スポーツ経営学	2	選択		体育・スポーツにおいて人の管理、施設・用具の管理、財務管理など、経営学的なものの見方・考え方が不可欠である。本授業では、スポーツ経営に関連する法律や制度を学ぶとともに、スポーツ行政、スポーツ用品産業、企業とスポーツ、民間・公共スポーツ施設の運営、スポーツスポンサーシップ、スポーツイベントの開催等を、社会状況を鑑みながら、経営学的な観点から捉えて、スポーツに対する理解を深めていくことを目的とする。	◎				○		3, 9, 16
スポーツビジネス論	2	選択		スポーツ産業やスポーツビジネス全般についていくつかに分類し、各スポーツビジネス分野の現状や課題について学び、説明できるようにする。また、グループワークを通して、現在のスポーツ産業やスポーツビジネスに関する課題を議論・発表して、さらに理解を深めるとともに、自分自身の考え(解決法)をまとめ、論理的に説明できるようにする。	◎				○		8, 12
スポーツアロマセラピー	2	選択		アロマセラピー(芳香療法)は植物から抽出された精油を用いる自然・植物療法である。近年ではスポーツ分野においても自身やチームのパフォーマンスを高めるために香りを心身のケアに取り入れる事例が増えている。本講義では精油を用いて、痛みの軽減、ストレスケア、睡眠の質の改善、セルフアロマトリートメントなど、健康維持やスポーツにおいて役立つケアについて理論的・実践的に学び、香りの持つ可能性について考える。	◎				○		3, 12, 15
体力トレーニング実習	1	選択		生涯にわたって健康な生活を営むためには、柔軟性・筋力・全身持久力などの体力要素が特に重要になる。健康づくり運動の指導者は、これらの体力要素を安全かつ効果的に指導できることが求められる。本授業では、柔軟性を高めるためのストレッチング(静的・動的)、筋力を高めるためのレジスタンストレーニング(フリーウエイトとマシン)、さらに全身持久力を高めるためのエアロビックトレーニングについての理論と方法を学ぶ。	◎				○		3
スポーツ医学	2	選択		スポーツ・健康づくりの指導者として必要な身体運動にとって重要な骨や筋などの名称および働きなど理解することをねらいとする。主に、各関節運動の名称およびいずれの筋が動員しているかを学び、実際の動きを運動事例に学ぶ。また、整形外科的・内科的なスポーツ障害の予防法についても学ぶとともに、リハビリテーション医学の基礎から障害者または障がい者スポーツへの理解を深める。ドーピングの基礎知識についても学ぶ。	◎				○		3

	健康運動指導法（実習を含む）	2	選択		本授業は、各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実際と評価について学び、それぞれの測定結果を身体活動・運動やトレーニングに応用できるように授業を実施する。また、生活習慣病予防における身体活動・運動の必要性とその期待できる効果について学び、性、年齢などの諸条件を考慮した安全かつ効果的な運動プログラムを立案できるように授業を行う。	◎					○	3
	衛生・公衆衛生学	2	選択		公衆衛生学は、人間集団の健康増進を目的とした実践の学問であり、地域住民や学校の生徒など人間集団を対象として健康状態の向上を目指すという特徴がある。この授業では、疫学、感染症と生活習慣病の予防、母子保健、学校保健、精神保健など、人間集団の健康増進と疾病予防のための方策を学び、公衆衛生の現状を把握し向上を図るための基本的知識、技能、態度を修得することが目的である。	◎					○	3
	学校保健学	2	選択		本授業では、発育発達期にある児童・生徒の健康の保持増進を図る事を目的とする学校保健について、保健管理、保健教育及び組織活動について理解を深め、学校保健を積極的に実践する能力を養う。また、授業を通して、児童生徒の健康の保持増進を図るため、学校保健計画、心身の発育・発達、児童生徒に多い健康問題、環境衛生、安全管理及び教職員の役割、組織活動について理解を深める。	◎					○	3, 4
	スポーツと地域振興	2	選択		地域振興の施策として、スポーツイベントやレジャー企画の運営が注目されている。国のスポーツ振興法およびスポーツ振興基本計画、スポーツ基本法およびスポーツ基本計画に基づいた施策について学び、さらに地方自治体や地域におけるスポーツ振興策と地域スポーツクラブの役割・機能について理解を深めることを本授業の目的とする。授業では、社会の中のスポーツの役割について考えるとともに、今後の地域振興策などを考察する。	◎					○	3, 4, 11, 17
	地域スポーツマネジメント論Ⅰ	2	選択		地域スポーツのマネジメントに関しては、地方公共団体のスポーツ振興策のあり方、総合型地域スポーツクラブに対する期待、部活運営に象徴される学校体育の課題等多くの問題を抱えており、地域スポーツマネジメントの在り方に社会の関心が寄せられている。本授業では「地域スポーツ」をキーワードとして現状の把握、今後の課題について学ぶ。特に「総合型地域スポーツクラブ」にフォーカスし、クラブ運営について理解を深める。	◎					○	3, 4, 11, 17
	地域スポーツマネジメント論Ⅱ	1	選択		地域スポーツマネジメント論Ⅰに引き続き、「地域スポーツ」をキーワードとして現状の把握、今後の課題について学ぶ。特に「総合型地域スポーツクラブ」にフォーカスし、クラブ運営について理解を深め、併せてクラブ運営に関わる人材に求められる知識、情報、能力を得ることをねらいとする。授業形態は、総合型地域スポーツクラブ運営の活動体験として、演習形式（ビジネスプラン作成、ポスター作製等）の授業を実施する。	◎					○	3, 4, 11, 17
専 門 科 目 群 Ⅱ （ ゼ ミ 研 究 ・ 実 践 ）	ゼミナールA	2	必修		演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。					○	◎	4,17
	ゼミナールB	2	必修		演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。					○	◎	4,17
	ゼミナールC	2	必修		演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。					○	◎	4,17
	ゼミナールD	2	選択		演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。					○	◎	4,17
	ゼミナールE	2	選択		演習形式で授業を行う。グローバルビジネス分野、スポーツマネジメント分野、地域公共マネジメント分野、経営分野、会計分野、情報マネジメント分野、グローバル・コミュニケーション分野における各教員の専門性・テーマに基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。					○	◎	4,17
	プロジェクト研究A	2	選択		この授業は業界研究を通して航空産業が人、モノの輸送を担うことにより、世界のGNP、雇用、国際交流人口の拡大に貢献していることを学び、航空産業の将来を見通す基礎力を養う。また、新しい航空ビジネスモデルの事例をととして企業人に必要な考える力を身につける。本講義では、航空ビジネスの基本的ビジネスの事例をととして、航空ビジネスがもたらす様々な社会的・経済的効果の理解を深める。					◎	○	9
	プロジェクト研究B	2	選択		健康体力づくりの指導者としての知識、技能、および指導力を習得するための授業を展開する。レジスタンス運動およびエアロビックダンスの実技指導を中心に行う。健康づくり施策、運動生理学、機能解剖とバイオメカニクス、栄養摂取と運動、体力測定と評価、健康づくりと運動プログラム、運動指導の心理的要因、健康づくり運動の実際、運動障害と予防・救急処置に関する知識を身に付けるため、演習とその解説を中心に行う。					◎	○	9
	教職論	2	自由		今後の教職科目の履修に際して、今日の学校教育が抱える様々な課題と、その主たる担い手である教員の役割や責任について外観し、「教職とは何か」、「これからの教員に求められる資質・能力とは何か」、「教員の仕事と役割とは何か」、「どうすれば教員になることができるのか」、「教員は法律上どのような責任と義務（服務・研修・身分保障など）を負っているのか」等の教職にかかわる基本的な事項について幅広く学習する。					○	◎	4

教育課程論	2	自由	学校の教育課程（カリキュラム）の国家的・大綱的基準である学習指導要領の中心的な内容（基本方針、特徴等）について、現代日本の教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念、日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴、近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題について学習する。	○				○	◎	4
道徳教育の理論と方法	2	自由	この授業は、人間形成における「道徳教育」の重要な意義を歴史的な視点も含め総合的に理解するとともに、教職を志望する立場から現代社会における道徳と道徳教育の現状と課題について広く関心を持ちつつ、歴史的アプローチとして日本の近代教育と道徳教育の変遷をおさえつつ、21世紀に入って確立した「教科道徳」の意義と内容について取り上げていく。					○	◎	4, 5, 10
教育原理	2	自由	教育とは何か、その語源を押さえつつ、教育とは歴史的にどのように存在し現代にいたっているか、また21世紀社会においてどうあるべきか、問題関心を共有しつつアプローチしていきたい。なかでも近代日本における教育の歴史的発展をおさえつつ、さらに現代教育の骨格を形成している日本国憲法のもとで行われた戦後教育改革の意義と内容について正確な把握を行っていただきたい。					○	◎	4
教育心理学	2	自由	授業内容：前半は、教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識とスキルが必要となるのかに焦点をあて、子どもの発達の理解、発達課題、仲間関係の発達、発達と学校教育の関連について学習を進める。後半は、子どもの学習を促すには、学習にどう動機づけ、わかる授業をどうおこなうかに焦点をあて、学習とは、学習と授業の関連、授業の形態と適切な処遇、学習への動機づけ、学習を促すことと評価の関係などを考える。					○	◎	4, 16
教育制度	2	自由	歴史的アプローチとして、近代社会における近代公教育の成立と発展について欧米と日本の歩みについて概観し、現代日本の教育制度を方向付けている戦後教育改革の内容、日本国憲法の下での「教育基本法」「学校教育法」の制定と進歩的学校制度の形成、教育委員会制度や教員免許制度等の成立、現代日本の教育制度の諸側面（幼児教育・義務教育・中等高等教育・教職制度等）に関しても言及し考察を加えていきたい。	○				○	◎	4, 16
特別活動論	2	自由	特別活動は学校における多様な集団活動を通して、課題の発見や解決をおこない、よりよい集団や学校生活を目指しておこなわれる活動の総体である。特別活動の教育的な意義を理解し、学習指導要領改訂の3つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応など、特別活動の指導において必要な知識および素養を身に付けられるようにする。					○	◎	4
生徒指導（進路指導の理論および方法を含む）	2	自由	生徒指導の基本的な考え方、学習指導・進路指導・教育相談との関わりについて幅広く学ぶ。学校における小・中・高校生心理や状況を把握し、それら諸々の指導がどのように行われているのか、課題や対応の仕方等について理解を深める。特に、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価の改善や推進、ガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織体制に必要な知識や素養を身に付ける。					○	◎	4
特別のニーズ教育論	2	自由	インクルーシブ教育システムの基本的な理解を深めることをねらいとして、通常学級に在籍する障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズをもつ生徒の学習上、生活上の困難さの理解を深め、教育的支援のあり方について理解するために、インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、特別支援学校や特別支援学級などの各形態の現状と課題についてそれぞれ学習する。	○				○	◎	4, 5, 16
総合的な学習の時間の指導法	2	自由	多様な集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる特別活動の教育的な意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応等、特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付ける。					○	◎	4
教育方法論（ICT活用を含む）	2	自由	この授業は、「教員としての授業実践力」を修得するためにインクルーシブ教育の視点と「授業づくり」の関連性をもとに、よりよい授業づくりに向け、授業形態の歴史的な変遷、授業を成立させるための基本的な指導方法・学習方法について説明し、授業研究（学習指導案の作成、模擬授業の実践、授業検討会）を展開することで教育実習時の授業場面に役立つ「授業づくり」とそれを実践する力を学習する。					○	◎	4, 10
教育相談（カウンセリングを含む）	2	自由	思春期・青年期の発達は、依存と自立が混在する心理的不安定さ、アイデンティティの問題、身体的変化などが複雑にからみ合い、そうした過程を経て自己をつくる年代である。この時期の心の成長を援助するため、また心の問題を抱えた生徒に対応するため、教師として知っておきたい教育相談およびカウンセリングの基本を学習する。					○	◎	4
介護等体験	2	自由	事前指導は、安全で効果的な介護等体験の実習をおこなうために、実習の目的や意義、留意点や守るべきマナーなどを学び理解を深める。介護等体験の実習先である特別支援学校および社会福祉施設において求められる特別支援教育や介護・支援に関する知識、障がい者や高齢者の特性などに関する知識について学ぶ。事後指導は、介護等体験の振り返りを通して、自身の目指す教師像について具体的にイメージを持てるように展開していく。	○				○	◎	3, 4
教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）	3	自由	教育実習は3年次までの学習経験をふまえ、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。事前指導として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践、学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。					○	◎	4
教育実習Ⅱ	2	自由	教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえ実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。					○	◎	4

教職実践演習（中・高）	2	自由	教員としての意識と幅広い実践的指導力の向上を図るため、教員がもつべき使命感・責任感・社会性・対人関係能力について考察する。併せて、各教科や道徳の学習指導上の実践力の向上、さらに生徒指導の実践力（生徒理解や学級経営そして部活指導に関する領域に関して）の向上のために、大学での以下の授業と課題の探究のなかで、特にグループワークでのコミュニケーションや発表とまとめを中心とした演習でそれらの再構成を目指す。					○	◎	4
社会科教育法Ⅰ	2	自由	社会科の意義、目標、内容、方法、評価、学習指導要領など基礎論的な内容と、授業の組み立てや学習指導案の作成、模擬授業など実践的な内容を扱う。グループで模擬授業を企画したり実践したりする活動も毎回取り入れる。社会科授業の実践的な能力を身に付けられるようにする。情報機器の活用も含む。受講生が模擬授業を行う時間をなるべく確保する。社会科教育法Ⅰは主として中学校社会科の地理的分野を取り扱う。					○	◎	4
社会科教育法Ⅱ	2	自由	社会科の授業の組み立てや学習指導案の作成、模擬授業など実践的な内容を扱う。グループで模擬授業を企画したり実践したりする活動も毎回取り入れる。アクティブラーニングが中心となり、優れた学習指導案や具体的な教材を紹介して情報機器の活用も含む。受講生が模擬授業を行う時間をなるべく確保する。社会科教育法Ⅱは主として中学校社会科の歴史的分野を取り扱う。					○	◎	4
社会科教育法Ⅲ	2	自由	社会科の授業の組み立てや学習指導案の作成、模擬授業など実践的な内容を扱う。グループ分けをして、グループで模擬授業を企画したり実践したりする活動も毎回取り入れる。優れた学習指導案や具体的な教材を紹介して、社会科授業の実践的な能力を身に付けられるようにする。情報機器の活用も含む。受講生が模擬授業を行う時間をなるべく確保する。社会科教育法Ⅲは主として中学校社会科の公民的分野を取り扱う。					○	◎	4
社会科教育法Ⅳ	2	自由	教育実習を具体的な目標として、そのための準備を行う。具体的には模擬授業を中心に実施して、授業の実践力を高めること、教材研究を行って、授業に必要な社会科の知識・技能を高めること、学習指導案を作成して、授業の計画立案能力を高めることなどを扱っていく。					○	◎	4
公民科教育法Ⅰ	2	自由	高等学校公民科の意義・歴史の変遷と課題、目標、内容、方法、評価を取り上げます。優れた実践や教材も紹介します。「現代社会」と「政治・経済」、課題追究学習を中心に取り上げます。講義だけでなく、グループ活動も毎回取り入れ、グループごとに「学習指導案」を作成し、模擬授業を行い、実践的な能力も身に付けられるようにします。アクティブラーニングが中心で模擬授業には情報機器を活用できるようにします。					○	◎	4
公民科教育法Ⅱ	2	自由	公民科教育法Ⅰの学習を土台にして、授業づくりと教材研究を行います。グループで学習指導案を作成し模擬授業を行い、教育実習で公民科の授業がしっかりとできるように指導を行います。現代社会、倫理、課題を探究する活動を中心に取り上げ、自分が教える内容について豊富な知識を持っていることが必要なので講義時間外にも教科書、参考書を熟読し、自他の模擬授業等を通して、公民科の教育内容を十分理解するようにします。					○	◎	4
保健体育科教育法Ⅰ	2	自由	本授業では、学習指導要領に示されている「保健」「体育」の目標や内容等について説明することができる、目標に準拠した指導と評価を踏まえた保健・体育授業の基本的な考え方や進め方について理解できるようになる。保健体育科の授業は、どのような理論に即して実施されているのか学習指導要領解説などを踏まえて講義し、中学校・高等学校における分野・科目「保健」「体育」の授業づくり、その実践ができる力量の形成を図る。					○	◎	4
保健体育科教育法Ⅱ	2	自由	本授業は学習指導要領に基づいた学習指導案を作成できること、演習（教材づくり）を通して実践的指導力を身に付けることができるようになる。授業は、学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、指導計画の作成を通じて、学習内容や多様な学習方法、指導方法について考察していく。これらを踏まえ、保健・体育授業をつくる上で必要となる基礎的な知識を学び、授業づくりの実践力や安全に配慮された指導力を高める。					○	◎	4
保健体育科教育法Ⅲ	2	自由	本授業は保健、体育授業の実施計画について理解をより深め、単元計画や学習指導案の作成ができること、保健、体育授業の教材づくりの視点を持って学習指導案の作成ができること、組織的観察法についての理解を深め、より良い保健、体育授業の創出のための学習指導について考えることなどができる。模擬授業を実際に展開することにより、対人調整力やコミュニケーション力、より高度な応用力及び表現力を身につけることを目指す。					○	◎	4
保健体育科教育法Ⅳ	2	自由	本授業は各領域の学習指導に必要な知識と技能を習得し、指導できるようになること、保健体育科において取り上げる運動や保健領域について、実際の指導法の授業を通して、教材化することができる。教材研究を設定し、発表し再確認を行うことを通じて、また優れた実践のVTR視聴し具体的なイメージを話し合い指摘し合うことを通じて、中学校、高等学校での保健体育の授業を展開するにあたって教員としての能力を高める。					○	◎	4

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」

16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナーシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」